

# めだかの学校だより

平成 14 年 11 月 1 日  
第 38 号

学舎：いなさ自然休養村  
くつみくさ  
事務局：引佐郡引佐町  
東久留女木 472-111  
TEL053-545-0381

## 校長訓話

第三十八回校長 名和 理代子

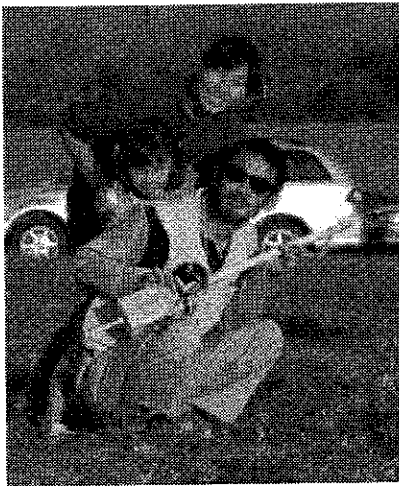
メダカの学校に参加して10年になります。未だにメダカの学校の運営の仕組みがよくわかっていないのが、現状です。

今回メダカの学校校長として、初めて職員会議なるものに参加しました。

給食係や受付や先生はやったことがありませんが、組織を動かしていく職員会議は始めてで、「こうしてメダカの学校が動いているんだなあ。」と改めて実感しました。

確かに事務局なるものが存在していることは、理解していても、いったいどんな風に運営されて、今までやってこれたのか、全く知りませんでした。

誰もが先生で生徒であり、常に、建学の精神で参加していくわりには、この部分については、全く仕組みがよく解っていない私が、今回の校長をやるのですから、まさに10年目にして、新たな勉強です。



校長訓話なるものが、個人のおしゃべりで終わっていいものか、疑問を持ちながら、今、自分が皆さんに伝えられることで、今回の職員会議を通して感じたことをテーマにお話ししようと思います。

私たち夫婦には5歳の女の子が一人います。毎日いろいろな発見と、とまどいと子育てをしています。

一つ、そこに深く根ざしているのは、人は一人ではないこと、感謝できること。

子供には何かとルールを教え込んでしまいますが、元気で、本心から「ごめんなさい」や「ありがとう」が言える人間

であってほしいし、うそをつかない素直な子であってほしいと願っています。

様々な人と出会い、みんな違うけど、相手を認めあいながら、自分らしく生きてほしいと思うのです。

ミヒヤエル・エンデの作品に「モモ」という本があります。時間に追われ、人の話を聞くことさえなく、時間を奪われていく人々の中で、モモという女の子が時間の花を取り戻していくお話です。是非、大人になった私たちが読んで、考えてほしい本だと思います。

エンデは、シュタイナー学校を卒業した人です。(このことに詳しくふれると原稿がいっぱいになってしまいうので簡単に終わりますね。)

人が集まって何かが始まる。だから、一人一人が互いを認めあうことから始める。

相手を認めるって事、それは、個人を尊重することであり、相手の話を聞く。理解する。自分と違うことを認める。

個人の尊重は、そういったことから始まると思うのです。

そして、自己責任を果たす。

解っていても出来ない自分がいることを認めて、前向きにどうすればいいのか考え行動する。

大人の社会がそうであってほしいと、私は考えています

## めだかの学校伝言板

——第38回めだかの学校を開校するので出席しなさい。

校長／名和理代子

教頭／本間 稔

用務員／岡田清多良

給食係／徳増兼弘・本島慎一郎・中嶋豊

石野省三・伊藤英雄・古橋利雄

尾上美智子・水村春江・鈴木真弓

鈴木正子・牧野久子

渡辺三ツ子(チーフ)

<学舎> 静岡県引佐郡引佐町奥山 1737-286

いなさ自然休養村「くつみくさ」内

TEL 053-543-0321 (開校日のみ)

開校日／平成14年12月6日(金) 6:20PMより  
受付／成小路太志・中村真弓・井上啓子・佐藤律子  
鈴木計芳(後見人)

<時間割> 開校心を歌えりみ、さらなる夢を！～

PM6:20 新入生紹介の連絡

6:25 事務局からの連絡

6:35 校長訓話の精神) 唱和

6:45 「建学の精神」を知って、さらなる夢を語り合おう～

6:55 初夢へ移動～

7:00 給食のほかに飲むほどに 議論談笑一

8:00 全員で片付け

8:10 2002年に感謝とお礼

10:00 閉校

10:10 閉校

10:30 閉校





# めだかの学校の10年 エツ、光っているメダカもいるの!

「めだかの学校は、川の中、そつとのおいでみてもらい、童謡『めだかの学校』の一節です。」

「何も教えていないですよ。ただ個性的な面白い人が集まっています。」と答えているが、この頃は「どんなメダカを育てていますか?」とよく聞かれる。その都度「頭の黒いメダカや中には光っているメダカも。世の中にはそつとがしい人もいるもので、光っているメダカもいます。それですか、こんど見学させてください。」これには参りませんでした。

「めだかの学校」は、おもしろ人立。4人のいい加減(発音に注意)な言い出しっぺによって平成5年9月、静岡県引佐町で設立される。なぜ9月かと言えば「満月の日にやろう」なのである。それも3ヶ月に一度、毎月「満月」にやるのは大変。3回以降は「満月」はやめ、第1金曜日の6時20分からにした。第1回の時は満月どころか台風余波で山は大荒れ。闇夜で道を間違えるものも出る始末。60人中55人の生徒が登校。いやはやまつたの驚きであった。10期10年目に入った今年の生徒数は150人ほど。秋田から福岡まで、いろいろなジャンルの人達がおおり、そんなところから、異人種グループとも言われている。

はてさて、「めだかの学校」は「学校」なのである。「建学の精神」もあれば、3ヶ月に一度で交替するが、校長、教頭、用務員、給食係もいる。職員会もあり、毎回の授業内容は職員会議で、テーマ、先生、科目演題まで決められる。先生になった生徒は、1ヶ月前に送られてくる『めだかの学校だより』で知ることになる。断ることはできない。入学の条件が「30分間講義ができること」なのである。なんと「めだかの学校」の楽しみは「給食の時間」にある。食べるほどに飲むほどに議論談笑。まさに交流。これぞ醍醐味。これが人の集まる理由かも。

校歌「めだかの学校」に詞われている基本精神「そつとのおいでみてもらい、みんなで遊戯」は好奇心と遊び心。「誰が生徒か先生か」は生徒でありながら5時には先生になって「挑戦心と自己研鑽。そう、めだかの学校の「建学の精神(こころ)」は「好奇心と遊び心と挑戦心」自己研鑽なのである。10年を迎えたと遊戯心と「周年企画委員会」をつくって記念事業の企画を検討している。

在校生も交えた「大同窓会」。めだかの学校10年の足跡と、めだか生の地域活動と連携をまとめた「10年史」。めだか生にしかできないような質の高い夢のある「シンポジウム」など。そんな中、「三遠南信地域で活躍してい

るめだか生も多いから、長野県の田中康夫知事と静岡県の石川嘉延知事の対談はどうか?」など、ワクワクするような案も浮上している。実現したら勇気百倍、元氣百倍、楽しいですよ。ね。

「めだかの学校」の10年後、20年後、いつまでも元気に自己研鑽しながら人的交流、地域交流を続けていきたいものである。

おもしろ人立「めだかの学校」

言い出しっぺ 榎原幸雄

★右記事は、P.8号に掲載しています。

## ◆事務局より

■おさむ。皆さんは如何お過ごしですか。私と言えは男の更年期でしょうか。集中力、気力、記憶力、体力も衰えて、いやはや全くと、「めだかの学校だより」も、又々遅れてしまいました。「呆きらめてます。でも首を長くして待ってます」とは、うれいね。

「めだかの学校」も、9月6日の37回をもって10年。「10年の足跡」をまとめた。県立観音山少年自然の家で開校された「37回」は、あいにく天候で、「ファイヤー」を囲んでの青春謳歌はできませんでした。体育館でのキャンドルファイヤーで、ちよつとだけかんじました。観音山少年自然の家で用意してくれたペロペロ舌を出すマムシの「赤太郎」「青太郎」にはびっくり。人気者でした。

10年目、2回目の「第38回めだかの学校」の職員会議を豊岡村のキツチン「味里(金原志郎メダカ店長)で行いました。38回は10年の節目でもあり、10年以後の夢も含んで、あらためて「建学の精神(こころ)」の精神をみんなで考え、話し合うのもいいネ」と全体集会和給食HRにしました。夢や希望を個々人の思いとして語って欲しい。個が光らずして全体が光ることはないものね。名和理代子校長「進行は私にやらせて」。口火を切る提言者はあの人がいいヨ。「じゃ、口説いて。パツパツパツと意見は出て決まるけど、あとは事務局で」。いやはやい

つものパターン。今回は10周年企画委員会も招集しているので企画委員会へ。企画委員会としては、早急に具体的なことを決めておこうと、一つは在校生も交えた「大同窓会」。二つは「10年生史の編纂」。三つは「めだかのできできない質の高い、それでいて面白くて楽しい」シンポジウム。それ以外に遠足もやりたい文化祭もやりたい。やりたいだらけだが大きくは三つに絞ってやることにした。全体の委員長は清久メダカだが、「大同窓会」は石野省三メダカ委員長を軸に磐田市と豊岡村のメダカが主体で、「1月25、26の1泊2日、奥山方広寺」で決定。詳細は別途連絡。「10年史」は加藤修一メダカ委員長に春ころには纏める。11月中には原稿依頼する。多くのメダカ生の活動も網羅する予定ですので毎開校時の写真や遠足の写真など関連する資料がありましたら積極的に提供してください。「シンポジウム」については、質の高いものを求めて三遠南信に焦点を絞っている。松田不秋メダカと関子メダカに正副委員長をお願いした。こちらは「めだかの池」で泳ぐようなものではなく、一般を対象にした、もつと大きなところで泳ぐもの、企画委員長を中心に詰めるから「めだかの学校」全体を進めていく予定です。

◆さて「めだかの学校」の学舎ですが、10年間「つみくさ」をお借りしてやって来ましたが経営者も変わりムリしてやらうことはできません。いま引佐町東久留女木の「みどりの里キャンプ場」の借入を交渉しています。現在は「ボーイスカウト連盟静岡支部」が地元から借り受け管理していますが、使用頻度も少ないので同居させてもらう積もりです。環境的には最高(原邦司メダカ談)で、百人以上が入室できる観音塾、厨房、研修室、宿泊棟、バンガローもあり、見晴しもいいので、使いやすいのはいろいろなことできます。今はボーイスカウト連盟からの返事待ちです。了承があり次第、地元自治会との話し合いとなります。牧野久子メダカが同自治会会員であるので安心です。10年目にして固定した学舎が

できれば最高ですね。記念樹も植えたりして、空高く伸び白い雲がなびくように花が咲く「白雲木」がいいね。

■10期(平成14年9月1日)15年8月31日まで)の継続手続きは随時しています。まだ手続きを済ませていない生徒には申込書を同封しますので、必要事項を記入し、千円を添えて事務局まで提出してください。その後も随時受け付けはしますが、手続きのない生徒は自動的に名簿からはずれ、自動退学となります。ご注意ください。(事務局 榎原幸雄メダカ)

★ありがとうー生原稿をパンチ打ち、メール送信してくれる溝口久、石野省三、本島慎一郎、鈴木正士メダカ。それを編集・印刷してくださるエヌビーネットの伊藤さん、照井泰子メダカさん、原稿出稿のメダカさん。感謝。

◆各地のたよりの掲載について  
各地でいろいろ催事があると思  
います。個人情報でも結構です。期  
日以外でも、場所、日に合わせてま  
とめます。ハガキで封書でFAXで  
メールで。次回発行日は2月1日  
です。1月20日まで事務局へ。  
Eメール/egohnet.co.jp(エヌビー  
ネット照井泰子あて)



めだかの学校事務局  
〒431-2531  
静岡引佐郡引佐町東久  
留女木472-1111

「リンデンハウム」内 榎原幸雄  
※「つみくさ」は学舎のみです。す  
べての連絡・お問い合わせは「事務  
局」にお願いいたします。